

ヘブル語で味わう

「中風の人」と「長血の女」のいやし

1. 「中風の人」のいやし

マルコの福音書 2 章 2、3、4 節

- 2 それで多くの人が集まったため、戸口のところまですきまもないほどになった。この人たちに、イエスはみことばを話しておられた。
- 3 そのとき、ひとりの中風の人が四人の人にかつがれて、みもとに連れて来られた。
- 4 群衆のためにイエスに近づくことができなかつたので、その人々はイエスのおられるあたりの屋根をはがし、穴をあけて、中風の人を寝かせたままその床をつり降ろした。

(1) 「屋根」ということば意味すること

屋根 **גַּג** ガーグ には (香の壇の) 上面の板、という意味もあります。旧約聖書の最初の出典箇所は出エジプト記 30 章 3 節です。

「上面と回りの側面と角を純金でかぶせる。その回りに、金の飾り縁を作る。」
アロンが朝と夕に香をたく祭壇です。

10 節 アロンは年に一度、贖罪のための、罪のためのいけにえの血によって、その角の上で贖いをする。すなわち、あなたがたは代々、年に一度このために、贖いをしなければならない。これは、【主】に対して最も聖なるものである。」

この節はとても重要です。贖罪の日の儀式に言及しているからです。
贖罪の日は、他の箇所ではレビ記と民数記に見られます。



レビ記 23 章 27、28 節

- 27 特にこの第七月の十日は贖罪の日、あなたがたのための聖なる会合となる。あなたがたは身を戒めて、火によるささげ物を【主】にささげなければならない。」
- 28 その日のうちは、いっさいの仕事をしてはならない。その日は贖罪の日であり、あなたがたの神、【主】の前で、あなたがたの贖いがなされるからである。

民数記 29 章 7、8 節

- 7 この第七月の十日には、あなたがたは聖なる会合を開き、身を戒めなければならない
どんな仕事もしてはならない。
- 8 あなたがたは、【主】へのなだめのかおりとして、全焼のいけにえ、すなわち、若い
牛一頭、雄羊一頭、一歳の雄の子羊七頭をささげなさい。これらはあなたがたにとっ
て傷のないものでなければならない。

マルコの福音書2章4節の「屋根をはがす」という行為は、「イエシュアがいけにえとし
てささげられたことによって、私たちの救い主となられた（私たちは贖われた。）」という
真理への意思表示と考えることができます。「屋根」は旧約時代の象徴です。もう、儀式は
必要ないのです。

マルコの福音書2章2節に「イエスはみことばをはなしておられた。」あります。

καὶ ἐλάλει αὐτοῖς τὸν λόγον.

λόγος ロゴス、ヘブル語 דָּבָר דアーバール 「ことば」です。

ギリシャ語とヘブル語のどちらにも「神の約束」という意味もあります。

ヨハネの福音書1章1節

Ἐν ἀρχῇ ἦν ὁ λόγος, καὶ ὁ λόγος ἦν πρὸς τὸν θεόν, καὶ θεὸς ἦν ὁ λόγος.

初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。

イエシュアはご自身について ἐγώ εἰμί 「わたしは～である」と説明なさいます。
キリスト教は「キリストの教え」ではありません。

「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。（ヨハネの福音書14章6節）」
私たちの信仰の対象はいのちへといたるこの「ことば」λόγοςであり、「いのちの源」
であるその方を知ることです。マルコの福音書2章3、4節はその「ことば」の内容の象徴
ととらえることができますと思います。

「4人の人にかつがれて」の4という数字は「真理」を意味します。ですからここは、
「真理にかつがれて」と読み取ることができます。

そして契約の箱とあがないのふたの幅と長さの比率（出エジプト記25章17節参照）
は、3対5です。これは「イエス」：「キリスト」のゲマトリアの比率と同じです。
（ゲマトリア数秘術 久保有正 84、85、86ページ参照）

また、幕屋の香壇の形である四面は「新しいエルサレム」を象徴していると思われます。

(2) 「寝かせたまま」ということばの意味

マルコの福音書 2 章 4 節

群衆のためにイエスに近づくことができなかつたので、その人々はイエスのおられるあたりの屋根をはがし、穴をあけて、中風の人を寝かせたままその床をつり降ろした。

「寝かせたまま」に注目します。

שָׁכַב シャーカーヴ 横になる、寝る、眠る、性交する

שָׁכַבְתָּ シェコーヴェト 女性名詞 性交 旧約聖書で 4 回使われています。

レビ記 18 章 20、23 節 20 章 15 節 民数記 5 章 20 節

民数記 5 章 20 節を見てください。

「しかしあなたが、もし夫のもとにありながら道ならぬことを行って身を汚し、夫以外の男があなたと寝たのであれば、」

ここは、ずばり、**イスラエルの姦淫、偶像礼拝を象徴しています。**イスラエルは神の民ですが、何度も何度も主に対して「姦淫」を犯してきました。「寝かせたまま」はこのことを強調しているものと思われます。

(3) 「寝床をたたむ」ということばの意味

マルコの福音書 2 章 11 節

「あなたに言う。『起きなさい。寝床をたたんで、家に帰りなさい』と言われた。」

起きなさい **קום** 起きる、立つ、成就する、果たす、建て直す、建て上げる、復興させる
イエシュアは、「**約束は成就した。イスラエルは回復した**」と言っています。

寝床 **מִשְׁכָּב** ミシュカーヴ 寝床、寝台、(性交のため)横たわること

たたむ **נָשָׂא** ナーサー 上げる、荷う、こらえる、赦す

「寝床をたたむ」は、「神がその姦淫の罪を赦す」です。

נָשָׂא ナーサーが「赦す」という意味で使用されている聖書箇所をピックアップしてみます。

創世記 50 章 17 節

『ヨセフにこう言いなさい。あなたの兄弟たちは実に、あなたに悪いことをしたが、どうか、あなたの兄弟たちのそむきと彼らの罪を赦してやりなさい、と。』今、どうか、あなた

の父の神のしもべたちのそむきを赦してください。」ヨセフは彼らのこのことばを聞いて泣いた。

出エジプト記 10 章 17 節

どうか今、もう一度だけ、私の罪を赦してくれ。おまえたちの神、【主】に願って、主が私から、ただこの死を取り除くようにしてくれ。」

出エジプト記 32 章 32 節

今、もし、彼らの罪をお赦しくだされるものなら——。しかし、もしも、かないませんなら、どうか、あなたがお書きになったあなたの書物から、私の名を消し去ってください。」

民数記 14 章 14 節

あなたがこの民をエジプトから今に至るまで赦して下さったように、どうかこの民の咎をあなたの大きな恵みによって赦してください。

ヨシュア記 24 章 19 節

すると、ヨシュアは民に言った。「あなたがたは【主】に仕えることはできないであろう。主は聖なる神であり、ねたむ神である。あなたがたのそむきも、罪も赦さないからである。

I サムエル記 25 章 28 節

どうか、このはしためのそむきの罪をお赦してください。【主】は必ずご主人さまのために、長く続く家をお建てになるでしょう。ご主人さまは【主】の戦いを戦っておられるのですから、一生の間、わざわざはあなたに起こりません。

イザヤ書 2 章 9 節

こうして人はかがめられ、人間は低くされた。——彼らをお赦しにならないように。——

イザヤ書 33 章 24 節

そこに住む者は、だれも「私は病気だ」とは言わず、そこに住む民の罪は赦される。

詩篇 25 篇 18 節

私の悩みと労苦を見て、私のすべての罪を赦してください。

詩篇 32 篇 1, 5 節

- 1 幸いなことよ。そのそむきを赦され、罪をおおわれた人は。
- 5 私は、自分の罪を、あなたに知らせ、私の咎を隠しませんでした。私は申しました。

「私のそむきの罪を【主】に告白しよう。」すると、あなたは私の罪のとがめを赦されました。セラ

詩篇 85 篇 3 節

あなたは、御民の咎を赦し、彼らのすべての罪を、おおわれました。 セラ

詩篇 99 篇 8 節

われらの神、【主】。あなたは、彼らに答えられた。あなたは、彼らにとって赦しの神であられた。しかし、彼らのしわざに対してはそれに報いる方であった。

すべてが、「イスラエルの回復」について言及している聖句です。ピックアップされた聖書箇所周辺を読むととてもよくわかります。

「家に帰りなさい」の「家」は「取り払われることのない天幕、エルサレム」です。

「あなたに言う。起きなさい。寝床をたたんで、家に帰りなさい。」というイエシュアのことばは「神の約束は成就し、イスラエルは回復した。神は御民の咎を赦したのです。さあ、イスラエルよ、エルサレムへと帰るように」です。

マルコの福音書 2 章 9 節

中風の人に、『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて、寝床をたたんで歩け』と言うのと、どちらがやさしいか。

やさしい のヘブル語は קָלָל קָלָל カーラル 軽んじられる、卑しめられる、という意味もあります。קָלָלָה קָלָלָה ケラーラー 女性名詞は のろい、あざけり、です。

「あなたの罪は赦された」はクリスチャンなら誰でも理解できます。「起きて、寝床をたたんで歩け」はどうでしょう？ 容易に理解できない聖書箇所です。それどこか、軽んじられ、卑しめられてはいないか、とイエシュアは私たちに問いかけているのではないのでしょうか。

2. マタイの福音書 8 章 8 節にある「屋根」

「しかし、百人隊長は答えて言った。「主よ。あなたを私の屋根の下にお入れする資格は、私にはありません。ただ、おことばを下さい。そうすれば、私のしもべは直ります。」
ここにも「屋根」と書かれています。

ここの屋根は קורה コーラー 女性名詞 梁、丸太、です。この時代、ユダヤ人は異邦人の家に入ることはありませんでした。「あなたを私の屋根の下にお入れする資格は、私にはありません。」という発言は「私は異邦人です。」ということを強調しているものと思われま。この節のキーは「おことばをください。」です。ことば λόγος ログス דבר דバー、「神の約束」です。「神の約束を異邦人の私たちにもください。もらえるはずです。」と百人隊長は言っているのです。9節で権威の絶対性について言及しています。イエシュアに与えられた「御国の救い」の「権威」は絶対に成就すると百人隊長は言っています。

二つの「屋根」はイスラエルと異邦人をつないでいるのかもしれませんが。イスラエルの「屋根」がはがされ、異邦人の「屋根」の中にイスラエルと同じ「神の約束」が入ってきた、ということでしょうか。קורה の動詞形 קרה には (ことばが) 実現する、という意味もあります。

3 長血の女のいやし

マルコの福音書5章25-34節

- 25 ところで、十二年の間長血をわずらっている女がいた。
- 26 この女は多くの医者からひどいめに会わされて、自分の持ち物をみな使い果たしてしまっが、何のかいもなく、かえって悪くなる一方であった。
- 27 彼女は、イエスのことを耳にして、群衆の中に紛れ込み、うしろから、イエスの着物にさわった。
- 28 「お着物にさわることでもできれば、きっと直る」と考えていたからである。
- 29 すると、すぐに、血の源がかれて、ひどい痛みが直ったことを、からだに感じた。
- 30 イエスも、すぐに、自分のうちから力が外に出て行ったことに気づいて、群衆の中を振り向いて、「だれがわたしの着物にさわったのですか」と言われた。
- 31 そこで弟子たちはイエスに言った。「群衆があなたに押し迫っているのをご覧になっていて、それでも『だれがわたしにさわったのか』とおっしゃるのですか。」
- 32 イエスは、それをした人を知ろうとして、見回しておられた。
- 33 女は恐れおののき、自分の身に起こった事を知り、イエスの前に出てひれ伏し、イエスに真実を余すところなく打ち明けた。
- 34 そこで、イエスは彼女にこう言われた。「娘よ。あなたの信仰があなたを直したので、安心して帰りなさい。病気にかからず、すこやかでいなさい。」

(1) 「イエスの着物にさわる」

着物 **כִּפְתָּר** ベゲドには **(贖いの) 布** という意味もあります。民数記 4 章 6, 7, 8, 9, 11, 12 他で使われています。

- 6 その上にじゅごんの皮のおおいを掛け、またその上に真っ青の布を延べ、かつぎ棒を通す。
- 7 また、供えのパンの机の上に青色の布を延べ、その上に皿、ひしゃく、水差し、注ぎのさげ物のためのびんを載せ、またその上に常供のパンを置かなければならない。
- 8 これらのものの上に緋色の撚り糸の布を延べ、じゅごんの皮のおおいでこれをおおい、かつぎ棒を通す。
- 9 青色の布を取って、燭台ともしび皿、心切りばさみ、心取り皿およびそれに用いるすべての油のための器具をおおい、
- 11 また金の祭壇の上に青色の布を延べなければならぬ。それをじゅごんの皮のおおいでおおい、かつぎ棒を通す。
- 12 聖所で務めに用いる用具をみな取り、青色の布の中に入れ、じゅごんの皮のおおいでこれをおおい、これをかつぎ台に載せ、

幕屋の種々の用具は、聖さの程度を表すために、異なる色の布で包まれた。**神の御座である最も聖なるあかしの箱は**、最初に仕切りの幕でおおい、それから「やぎの皮」(AV「あなぐまの皮」、NEB「いるかの皮」新改訳「じゅごんの皮」)でおおい最後に**真っ青の布**で包んだ。その次に神聖な幕屋の用具は青色の布で覆われ、その上を山羊の皮で覆った。(民数記 4 章 7-12 節) 幕屋の庭にある全焼のいけにえのための祭壇は、最初に「紫色の布」で包まれ、それから山羊の皮で覆われた。このように、宿営が移動する時に、**「あかしの箱」は真っ青の布で覆われることによって、その他のすべての用具と区別された。**

さわる **נָגַע** ナーガーには 触れる、届く、達する という意味があります。

「イエスの着物にさわる」ということは、**神の御座である最も聖なる所に達する**、という意味と考えることができます。

幕屋では濃淡のある同系色が用いられていた。真っ青の幕は至聖所で用いられ、紫は聖所で、外側の覆いは山羊の皮であった。これらの色は明らかに意味を持っていたが、その意味を明らかにするのは困難である。明らかに、青は神の真の住まいである天の色だからであり(出エジプト記 24・10、I列王記 8・27 参照)、幕屋は神の天の住まいの原型に基づいて建てられたからであろう。(出エジプト記 25・9、40、ヘブル人への手紙 8・

5)。ほかには、青と紫の垂れ幕は王の天幕を飾っていた（エステル記1・6）。同様に、王や貴族は青や紫の衣服をまとっていた（例 エゼキエル23・6、士師記8・26）。ここで同じ色を用いていたことは、イスラエルに幕屋は彼らの王である神の王宮であり、あかしの箱は神の王座であることを思い出させた。

「イエスの着物にさわる」という行為は、「御国にある神の御座」にその信仰が届いた、ということの象徴と言えます。イエシュアはこのような信仰に驚いて、群衆の中を振り向いて、「だれがわたしの着物にさわったのですか」と言われたのではないのでしょうか。

(2) 「着物のふさにさわった」

マタイの福音書9章20節、ルカの福音書8章44節では「着物のふさにさわった」と記述されています。イスラエル人は着物の四隅にふさをつけなければなりません（民数記15章38節）。それぞれのふさは、王族と神を現す青色の糸が織り込まれていなければなりません。「祭司の王国、聖なる国民（出エジプト記19章6節）」に属することをイスラエルに思い出させるための青い糸です。

ヘブル語訳は「ふさ」という意味で קָנֶף カーナーフが使われています。קָנֶף は「隅」であって「ふさ」は צִיָּצִית ツィーツィットです。「ふさ」のギリシャ語 κράσπεδον クラスペドウ のヘブル語訳は צִיָּצִית でいいと思いますが、קָנֶף になっています。不思議です。

「上着のへりをさわる」ということは信仰、忠実、契約を結ぶことの象徴でもあったようです。このことが関係しているか、また、ふさは四隅についていたので「真理」を意味する「4」に触れたということを強調したのか、興味深い訳になっていると思います。また「4」は、ヘブル文字の「ダーレト」で「門」を意味します。

イザヤ書12章13節を見てください。

「主は、国々のために旗を揚げ、イスラエルの散らされた者を取り集め、ユダの追い散らされた者を地の四隅から集められる。」

ここも、קָנֶף が使われています。マタイの福音書24章31節もこのみことばの成就です。

マタイの福音書24章31節

「人の子は大きなラッパの響きとともに、御使いたちを遣わします。すると御使いたちは、天の果てから果てまで、四方からその選びの民を集めます。」

集められた人たちはヨハネの黙示録22章14節の「門」を通ることが許された人たちで

す。新しいエルサレムの東、北、南、西に各三つ、全部で十二ある「門」です。

ヨハネの黙示録 2 2 章 1 4 節

自分の着物を洗って、いのちの木の実を食べる権利を与えられ、門を通過して都に入れるようになる者は、幸いである。

ここの、「自分の着物を洗う」の「着物」は「שָׂמָה סַלְמָה」サルマー「洗う」は「קָבַס」カーヴァス」布をさらす（踏んだり打ったりして布を洗う）、という意味です。一生懸命、きれいにする、というニュアンスです。懸命に神様のことばと向き合うひたむきさを感じさせるヘブル語だと思います。ひたむきに真理を求める信仰者、です。

マタイとルカは「着物のふさにさわった」と記述することによって、どういう信仰者が「御国」に入れるか、ということを強調しているように思います。イエシュアの着物（のふさ）にさわって、イエシュアに「あなたの信仰があなたを直したのです。」と言われた人です。3 4 節がそのことを証明しています。

(3) 「安心して帰りなさい。病気にかからず、すこやかでいなさい。」(マルコ 5 章 3 4 節)

לְכִי לְשָׁלוֹם וְחַיִּית מִנְּעוּרַי

苦痛から 健やかに 安心して 行きなさい

נֶגַע ネガ 患部、疫病、災害、打撃

ギリシャ語 μᾶστιξ マスティクス 鞭、(神の懲らしめとしての) 罰、苦痛、病気
ヘブル語、ギリシャ語を見て、ここは「大患難時代」なのではないかと直感しました。

「ひどい痛みから解放されたのですから、あなたはこれから健やかに生きるように。」

「長血の女」はイスラエルの象徴です。12年間の「12」は「神が望んだ数」です。「十二年の間長血をわずらい」を「イスラエルが主に立ち帰るために神が望んだ(懲らしめの) 期間」と理解します。イスラエルは「イエスの着物にさわって」真実な方を知る理解力を与えられました。「あなたはこれから(御国で永遠に) 健やかに生き続けることができます。」とイエシュアは真理を告げています。

ヘブル語で、ヘブル的視点で新約聖書を瞑想することによって、私の聖書理解の「屋根」がはがされたように感じます。日本語だけで読んでいたのでは何百回、何千回読んでも、神様の思いでみことばを理解することは不可能だと痛感しました。ヘブル語は「神様の言葉」であり、「ヘブル的視点」は「隠された神の奥義を開く鍵」と言えると思います。

2015年6月22日 西川徳子